

第4回 関西支部研修会

日時：令和2年1月19日(日)
場所：梅田センタービル



上原 久晴 (京都府)



令和2年1月19日梅田センタービルにて第4回関西支部研修会が開催され、講師として当会会員の若井 広明先生と木村 健二先生に御登壇いただき、デジタルをいかに活用していくか実際の各機器の特色も交え御講演いただいた。

協和デンタル・ラボラトリーの木村先生から、技工所を開設され保険中心の仕事に追われる中で、いかにデジタルに可能性を見出し、デジタルに舵を切っていかれたのかお話いただいた。現在歯科医院にてIOSで撮影されたデータがどのようにラボに届けられ、保管されCADソフトで設計されるのか、様々なIOSに対応されている木村先生が実際の症例を挙げて説明され、デジタルワークフローへのスムーズな移行は歯科医院と取引先ラボ双方がIOSの特徴を理解し、さらにその拡張性や連携について理解することが必要で、コミュニケーションを密にとることで精度が上がると教えていただいた。

またデジタルに移行することで多くの歯科技工士が離職すると言われていた時代に、どの様に大規模な技工所を運営されているのかもお話いただき、効率的なシステムになっていると感じたが、新規採用者の御実家にも足を運び、意思が伝わるのは6人

が限界と考え、それに対応するチームを作りそれぞれの部署を任せ、チーム間はもちろん歯科医院とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係と作製する技工物を通じて患者さんと繋がっている実感を大切にしておられると感じられた。

次に若井先生から、IOSで撮影されたデータのエクスポートとアップロードの違い、STLデータについて分かり易く教えていただいた。講師の若井先生も早く各機器の特徴などの話をされたかったと思いますが、この解説がなければ後の話についていけなかったので、丁寧に説明していただいて有難うございます。その後代表的な機種であるプライムスキャンとトリオス3を中心に、それぞれの特徴や対応するソフトやアプリ、実際の技工物にどう反映させるのかを詳しく説明していただいた。それらの機器の選択は自身の医院でどこまでやる意思があるのかによって大きく変わると言われ、実際の2機種のデモを見せていただくと、自院に導入してある程度の技工物が作製できるイメージができた。

大変中身の濃い御講演で、苦手に感じていた内容でしたが今日が転機となると感じた研修会となりました。